

2024

9/17 火 - 11/3 日

入館無料

休館日 | 土・日・祝日 (11/3は開館)

開館時間 | 10:00~17:00 (最終入館は16:30)

上絵付の美



名古屋
絵付け
物語Ⅱ

一般財団法人
名古屋陶磁器会館
NAGOYA CERAMIC HALL

上絵付とは

成型した素地に釉薬をかけて、高火度で本焼きした後に、その上から上絵具を使って模様を描く技法が「上絵付」です。その後、600~800℃で焼き付けを行います。上絵付は、赤、緑、黄、紫などの多彩な色をより鮮明に表現することができます。

見栄えの晴れやかさ、美しさ、その場に華を与える存在感など、各産地ごとに上絵のスタイルがあり、上絵だけの収集家も居るほどに奥が深く、幅も広い魅力あふれる技法です。名古屋の上絵付は、日本各地より様々な上絵付技術を持った職人たちが集結し、発展してきたため、西洋花絵、凸盛り、金盛り、九谷風、薩摩風、銅板絵、石板転写、吹き絵、ゴム版など多岐にわたる表現が見られるのが特徴といえます。

上絵付の美



上絵菊図蓋物 昭和時代



上絵薔薇図飾皿 市ノ木慶治 昭和時代



上絵金彩風景図碗皿 昭和時代

「名古屋絵付け」とは

19世紀後半に欧米で開催された万国博覧会で、日本の陶磁器が人気を博し、ジャポニスムが起こりました。名古屋では、明治中期より、瀬戸や美濃で作られた白生地と呼ばれる白い陶磁器に上絵付を施す業者が現れ、九谷や京都、東京から名だたる絵付け師が名古屋に集結し、絢爛豪華な「名古屋絵付け」が誕生しました。

これらの作品は、海外において高い評価を受けました。



上絵金彩紅葉図香炉 昭和時代



黒猫図飾皿 林直三 昭和時代

しのき けいじ 市ノ木 慶治

～ノリタケで初めて作品に署名することが許された人物～

1891（明治24年）に名古屋市東区で生まれ、1905年にわずか14歳で森村組（現ノリタケ）に徒弟として入社しました。その後、大正末期から昭和中期にわたって活躍し、「ノリタケ最高峰の洋画家」として、すぐれた作品を多く生み出しました。とりわけ薔薇の絵は有名で、「市ノ木の薔薇」と呼ばれて人気を博しました。

名古屋陶磁器会館では、名古屋絵付けの伝統を受け継ぐため、絵付け教室を開催しております。本展では、絵付け教室の講師の先生方と講習生の皆さんの作品も併せて展示いたします。



一般財団法人

名古屋陶磁器会館

NAGOYA CERAMIC HALL



公式HP



X(旧Twitter)



Instagram

〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目10番3号
1-10-3 Tokugawa, Higashi-ku, Nagoya, Aichi, Japan

アクセス

市バス 「赤塚」より徒歩7分
「赤塚白壁」徒歩5分

地下鉄 桜通線「高岳」より徒歩17分

名鉄 「森下駅」より徒歩15分

お問合せ

電話番号 052-935-7841

HP <https://nagoya-toujikikaikan.org/>

